

Vol.3

世界的企業のCEOに インド出身者が多いワケ★



グーグル、マイクロソフト、IBM・・・これらの企業は、知らない人はいないというくらい世界的に有名な企業です。ではこれらの企業のトップであるCEOがどの国出身なのかはご存知でしょうか？なんと、全員がインド出身なのです！世界的企業のCEOにインド出身者が多いのはなぜでしょうか。

インド独自の文化や考え方から紐解いていきましょう！



🇮🇳 多言語・多宗教が入り混じる社会

インドの公用語はヒンディー語ですが、英語も準公用語として定められています。世界的企業で活躍するためには、英語を話せることが重要な要素というのは当然のことながら、実は注目すべきはインドで話されている言語の数です。ヒンディー語、英語以外にも方言を含めると**約600もの言語が使われている**と言われています！

また、宗教を見てみると、**ヒンドゥー教以外にも仏教、ジャイナ教、イスラム教、キリスト教**など多くの宗教が信仰されています。

さらに、日本の約9倍という広大な国土を持つため、気候や食事なども地域によって大きく異なります。インドは同じ国の中でも言語・宗教・文化などが異なる多様性社会となっているのです。

多国籍の人が集まる世界的企業で働くために求められる**互いの違いを認めつつ自分の意見も主張するために必要な柔軟性や粘り強さといったコミュニケーション能力が醸成されやすい環境**とも言えるでしょう。

IT業界でのインド出身者の活躍は有名ですが、ITにとどまらず、金融や消費財など、様々な業界の世界的企業でもインド出身者のCEOが多くなっているのは、こうしたことが影響しているのかもしれません。

CEO	インド出身のCEO例
Google (アルファベット) (2015年～)	スンダー・ピチャイ
マイクロソフト (2014年～)	サティア・ナデラ
IBM (2020年～)	アルビンド・クリシュナ
シャネル (2022年～)	リーナー・ナーイル
世界銀行総裁 (2023年7月就任予定)	アジェイ・バンガ

(2023年4月末時点)

🇮🇳 インドの成功哲学「ジュガール」

インド独自の考え方にも秘密があります。「**ジュガール**」という言葉を知っていますか？ジュガールとは、ざっくりとえば「いまあるものでどうにかして目的を達成する」インドの人の思考法です。出来ない理由にとらわれず、**どんな状況でもポジティブに最短活路を見出す成功哲学として、近年、経営技術として取り入れられることも増えています**。難題が発生した際でも「決して諦めない」「自分の枠を超えた発想で考え行動する」といった粘り強さや発想力があることも、インド出身者の活躍の背景にあるのかもしれません。

🇮🇳 「インドから世界へ」⇒「世界からインドへ」

インド出身者が世界的企業のCEOに多い理由がなんとなく見えてきたかと思いますが、皮肉にも、このことはインドにはまだまだ世界的企業が少ないことの現れとも言えます。一方で、近年は海外からの**インドへの投資が急拡大**し、変化の兆しも現れてきました。例えば、

- 1/01 2022年、ベンチャーキャピタルによるアジア・オセアニア地域の投資額の約2割をインドが占める
- 1/02 新たに誕生したユニコーン企業数は、2年連続で中国を上回る

特にインド発のユニコーン企業は積極的にグローバル展開を進め、インド人が世界的企業で活躍、という時代から、インド国内で起業した企業が世界の投資マネーによりグローバルで活躍する、という時代への変化が見えてきています！

「インドから世界へ」優秀な人材が出ていくのではなく、世界的企業がインドで生まれ「世界からインドへ」優秀な人材が集まるのも、そう遠くない未来なのかもしれません。



<当資料に関してご留意いただきたい事項>※当資料は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社が、情報提供を目的として作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。また、特定の金融商品の勧誘・販売等を目的とした販売用資料ではありません。※当資料は、信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料の内容は作成日時点のものであり、当社の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、将来予告なく変更されることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。※当資料では、個別企業に言及することがありますが、当該企業の株式について組入の保証や売買の推奨をするものではありません。※当社による事前の書面による同意無く、当資料の全部またはその一部を複製・転用並びに配布することはご遠慮ください。

イーストスプリング・インベストメンツ株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第379号 / 加入協会 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

英国ブルーデンシャル社は、イーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社、および英国のM&G社の子会社であるブルーデンシャル・アシアランス社とは関係がありません。

230519(04)